



枋原知雄

栃原知雄教授記念号によせて

栃原知雄先生は今年三月一杯で退職された。定年よりは一年お早いのであるが、先生自身の御都合もあってこうなったのである。大学としては定年退職という扱いをさせて頂いているのであるが、まことに名残惜しいことである。

先生は昭和35年わが社会学部が創設された時、英語担当の先生として着任された。この時、私も前学部長の山中教授と一緒にあった。そういうこともあって専門は全く異なるが、私は栃原先生には親しくして頂き色々と個人的にお話する機会を多くもつことができたように思う。そしてよく現在の大学生の英語の力だとか語学教育はどうあるかといったことなどについても雑談的にお話したことが多かったことを憶い出すのである。先生は学部創設以来、母校の新生学部を育てるため十年間非常にお骨折り頂いた。しかしそれは同時に先生にとってもある意味では楽しい日々ではなかったかと思う。たゞ残念なことは今回の紛争である。母校のため努力して下さいった先生がたにとってはあの紛争は心に大きい傷跡を残したのではないかと案じている。幸い紛争をうまく收拾でき学園も平静に復したが、その時学園を去られることになった先生の感慨もひとしお深いものがあるものと推察する次第である。

社会学在職中先生は主として英語教育に従事されていたため、先生の御好きな文学についての授業は余りなさる機会が多くなかったのであるが、そのことが先生の心残りになっておられるであろうと思われる。私たちが残念に思っているが、最終講義で先生の文学についての蘊蓄を傾けての熱のこもったお話を拝聴することができたことは何よりの幸いであった。人の世の定めとはいえ先生をお送りすることに深くさびしさを感じざるを得ない。

先生は御退職後、園田学園女子大学と短期大学で文学の教育を担当される由、今後の御自愛を祈るとともに御活躍を期待すること切である。十年間に亘って社会学の学部づくりに大きな貢献をして下さった先生の御骨折と学部に対するなみなみならぬ御厚情に対して深甚な敬意と心からの感謝の念を捧げる次第である。どうか今後とも御壮健で研究に精進下さるよう祈ってやみません。

この記念号には特に先生の玉稿を頂きましたが感謝いたすと同時にこの号を通じて先生の御尽力に対する社会学部一同の敬意と感謝をおくみとり下さるようお願いしたい。

昭和45年9月28日

関西学院大学社会学部長

小 関 藤 一 郎